

障害のある人と共に進めるユニバーサルデザインのまちづくり

1 取組状況

① 兵庫県「チェック＆アドバイス制度」を利用したバリアフリーチェック（2018年8月）

見出しの制度を利用し、再開発による整備後約1年半を経過した明石駅前及び駅周辺のバリアフリーチェックを、有識者と障害当事者、市職員（政策局、総務局、福祉局、都市局、明石観光協会 合同）、県担当者とで実施しました。頂いた助言については、順次対応を検討しています。



② 明石中央体育会館エントランスの修復工事にあたっての現地確認（2018年9月）

見出しの工事实施にあたって、明石市公共工事等設計・施工支援アドバイザーとして障害者施策担当課長が参加するとともに、計画段階で設計業者・車いすユーザーと一緒に現地を確認しながらユーザビリティ等に関する意見交換する機会を確保しました。

障害者用駐車スペースの設置場所や体育館への動線などについて、頂いた意見を工事計画に反映しました。（2019年5月工事完了予定）



③ あかしユニバーサルモニターとの街歩きバリアフリーチェック（2018年10月）

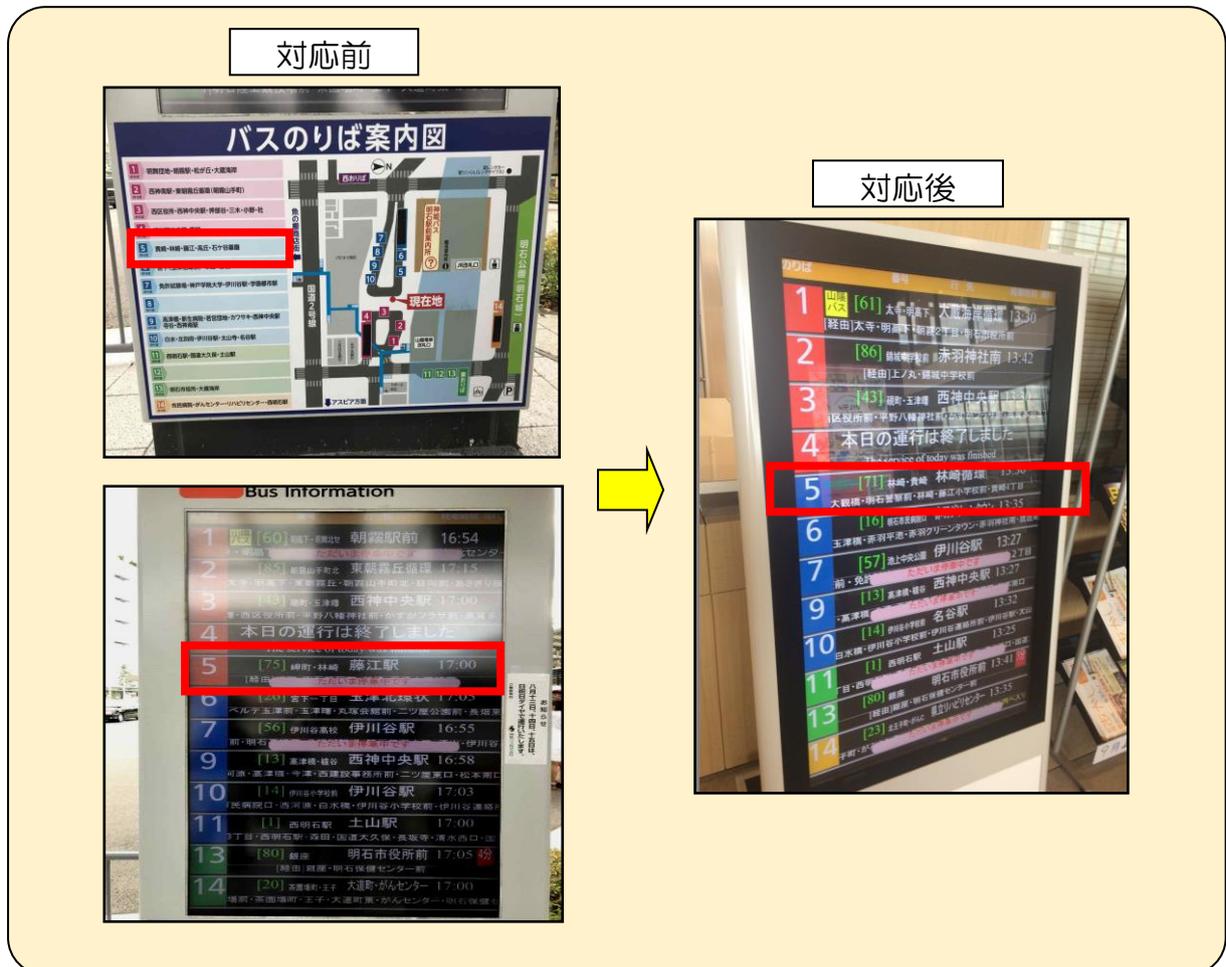
障害当事者目線でまちづくりに関する意見をだしてもらおう市民モニターとともに明石駅から市役所周辺を歩き、バリアフリーチェックを実施しました。街歩き終了後には会議室で振り返りを行い、参加者全員で様々なバリア情報の共有を図りました。把握したバリア情報をもとに現在マップを作成中であり、頂いた意見について、順次対応を検討します。



2 助言・意見への対応例

① チェック&アドバイス制度における助言

- 「案内板と乗り場の着色を統一されて分かりやすいが、電光案内板では色が違う乗り場がいくつかあり、統一する方が良い。」
 (例) 案内板で5番は「青色」だが電光案内板では「赤色」となっている



② あかしユニバーサルモニターとの街歩きバリアフリーチェックにおける指摘

- 国道 28 号線歩道上 溝蓋周囲の亀裂や段差が生じており、つまずく恐れがある。

